第8章

PHPlot によるグラフ作成

サーバ側で動作する PHP スクリプトとデータベースを組み合わせることで,自由自在 にアクセスしてきたユーザからの情報を保持し,加工することができるようになることは 前章で確認してきた。しかし,情報を集めただけではハードディスクの肥やしになるだけ である。集めた情報は加工し,見やすい形式でいつでも取り出すことができなければ意味 がない。データの加工は表計算ソフトウェアで行うように,まず作表して集計し,その上 でグラフ化することが多い。本章では PHPlot というグラフ描画ライブラリを用いたアク セス情報の収集とグラフ化を行うスクリプトを作成する。

8.1 アクセスリスト

Web サーバはアクセスしてきたブラウザ及びクライアントマシンの情報を保持している。これらのうち,一部は必ずログファイルに保存されており,一定期間保存され,アクセス解析や不正アクセスに対する操作のためのデータとして活用される。

PHP では Web サーバが保持しているアクセス情報は\$_SERVER['key値'] という配列 を通して得ることができる。例として Apache が保持しているユーザのアクセス情報一覧 を P.103, P.104 に示す。

これらのアクセス情報のうち,次の4つ

key 値 → フィールド名 (データ型)

- $HTTP_REFERER \rightarrow referer (varchar(512))$
- USER_AGENT \rightarrow user_agent (varchar(512))
- $\mathsf{REMOTE}_\mathsf{ADDR} \quad \rightarrow remote_address \ (varchar(512))$
- $\mathsf{REQUEST_TIME} \rightarrow \mathsf{request_time} (\mathsf{int})$

のみをデータベース (unix10/access_list.db) に保存するスクリプト (access_list.php) を次の 順に作成しよう。

1. アクセス情報を出力する部分を作成する (図 8.1)。例えば次のようなスクリプトを 書くと、上記4つの情報が取得できていることが確認できる。

1: // アクセス元の情報

- 2: // \$_SERVER['HTTP_REFERER'] ... リンク元
- 3: // \$_SERVER['HTTP_USER_AGENT'] ... ブラウザ名
- 4: // \$_SERVER['REMOTE_ADDR'] ... アクセス元(クライアント)ア

```
ドレス
```

```
5: // $_SERVER['REQUEST_TIME']
                            ... アクセス日時
6:
```

- 7: // \$_SERVER定義チェック(未定義の場合もあり)
- 8: \$referer = ''; 9: \$user_agent = '';
- 10: \$remote_address = '';
- 11: \$request_time = time(); // アクセス時間
- 12: if(isset(\$_SERVER['HTTP_REFERER']))
- \$referer = \$_SERVER['HTTP_REFERER']; 13:
- 14: if(isset(\$_SERVER['HTTP_USER_AGENT']))
- 15: \$user_agent = \$_SERVER['HTTP_USER_AGENT'];
- 16: if(isset(\$_SERVER['REMOTE_ADDR']))
- \$remote_address = \$_SERVER['REMOTE_ADDR']; 17.
- 18: if(isset(\$_SERVER['HTTP_USER_AGENT']))
- 19: \$request_time = \$_SERVER['REQUEST_TIME'];
- 20:
- 21: printf('\$_SERVER[\frac{\Frac{Ferer}}{}'] => %s
\frac{\Frac{Ferer}}{}', \$referer)
- 22: printf('\$_SERVER[\'HTTP_USER_AGENT\'] => %s
\\'n', \user_ agent):
- 23: printf('\$_SERVER[\'REMOTE_ADDR\'] => %s
\'n', \'remote_ad dress);
- 24: printf('\$_SERVER[\"REQUEST_TIME\"] => %s => %s
\"", \$req uest_time, date('Y-m-d H:i:s', \$request_time));



\$ SERVERの値を出力

図 8.1 アクセス情報表示のみ

- 2. SQLite で, unix10/access_list.db を作成し, id フィールド (int 型)と上記 4 つのフィールドの合計 5 フィールドを持つテーブル (access_list_all) を作って, access_list.php から読み書き可能であるようにパーミッションを変更しておく。
- 3. ブラウザから読み込む度に、上記4つのアクセス情報を access list.db に保存する よう access_list.php を手直しし、すべてのアクセス履歴が閲覧できるようにする (図 8.2)。

PHPlot の使い方 8.2

次の段階ではアクセス履歴から必要なデータを抜き出して集計し、それをグラフ化す る。そのためにはグラフ描画のためのライブラリが必要となる。PHP からグラフを描画 する方法は複数あるが、ここでは PHPlot[8] を使用する。

使用に当たっては幾つか条件があるので、まずそれを確認してから、PHPlot を用いた グラフ描画方法を見ていくことにする。

アクセスリスト アクセス情報(データベース格納分のみ) \$ SEFVER[HTTP.BEFERER]=> http://13389120197/*tkouya/webhocinus/index.html \$ SEFVER[HTTP_USER_AGENT]=> Anseina/50 (Windows; U, Windows NT 6.1; en-US) AppleWebKit/534.13 (KHTML, Wie Gactol Chrome/0.059749 Safari/534.13 \$ SEFVER[REWOTE_ADDR] > 1338912170 \$ SEFVER[REWOTE_ADDR] > 1338912170 \$ SEFVER[REQUEST_TIME]=> 1297343184 => 2011-02-10 22.0624			
		アクセスー	覧
		アクセス総数:7	
ID	8		
REFERFER	http://133.88.120.197/ [~] tkouya/webhpclinux/index.html		
USER_AGENT	Mozilla/5.0 (Windows; U; Windows NT 6.1; en-US) AppleWebKit/534.13 (KHTML, like Gecko) Chrome/9.0.597.94 Safari/534.13		
REMOTE_ADDR	133.88.121.79		
REQUEST_TIME	2011-Feb-10 22:06:24		
ID	7		
REFERFER	http://133.88.120.197/ [~] tkouya/webhpclinux/index.html		
USER_AGENT	Mozilla/5.0 (Windows; U; Windows NT 6.1; en-US) AppleWebKit/534.13 (KHTML, like Gecko) Chrome/9.0.597.94 Safari/534.13		
REMOTE_ADDR	133.88.121.79		
REQUEST_TIME	2011-Feb-10 22:06:18		
ID	a		
BEEEBEEB	jo http://133.88.120.197/ [°] tkouve/webboolinuv/index.html		
USER_AGENT	Mozilla/5.0 (Windows; U; Windows NT 6.1; en-US) AppleWebKit/534.13 (KHTML, like Gecko) Chrome/9.0597.94 Safari/534.13		
	133 88 121 79		
REMOTE_ADDR	1001001121110		

図 8.2 アクセス履歴表示

8.2.1 PHPlot のインストール

PHPlot を使うためには次の環境及びファイルが必要である。

- GD ライブラリ (PHP 環境で提供)
- PHPlot ライブラリ (phplot.php と rgb.inc.php)
- (オプション) 日本語 True Type フォント (ipaexg.ttf)

PHPlot は PHP ライブラリである GD(Graphics Draw) をベースとし, ビットマップ形式 (デフォルトは PNG ファイル形式) でグラフを描画する。そこでまず使用している Web サーバ側に GD がインストールされているかどうかを phpinfo 関数を用いて確認する (図 8.3)。

次に, PHPlot ライブラリをプロジェクトの Web ページ [8] からダウンロードし, phplot.php(PHPlot ライブラリ本体) と rgb.inc.php(色指定)*¹をグラフ描画する PHP スク リプトと同じディレクトリ (違う場合は適宜相対パス指定を変更) に置く。

PHPlot は、デフォルトでは ASCII 文字コード範囲のビットマップフォントしかグラフ 中の文字列表示に使用できない。日本語フォントを使用する場合は TTF(True Type Font) ファイルが必要となる。無料で使用できるものとしては IPA フォント [9] が提供されてい るので、ここではそれを使うことにする。使用するのは ipaexg.ttf(ゴシック体) のみなの で、これを phplot.php, rgb.inc.php と同じディレクトリに置いて使うことにする。

^{*1 2011} 年 2 月現在の最新版の場合。



図 8.3 GD ライブラリの確認

8.2.2 棒グラフの描画スクリプト

以上の環境が整ったら、早速グラフを描いてみよう。PHPlot の特徴は、グラフをビッ トマップ形式 (デフォルトは PNG ファイル) で描画するところにある。従って、グラフ描 画のための PHP スクリプトを呼び出す時には PNG ファイルを読み込むように扱わなけ ればならない。



図 8.4 棒グラフ表示例

例えば,図 8.4 のような棒グラフを表示する PHP スクリプトは次のようになる。

```
    require_once 'phplot.php'; // PHPlotクラス
    3: // 描画されるデータ(2次元配列)
    4: $data = array();
    5:
```

```
6: // $data = ('', $x, func($x))
7: for($i = 0; $i < 10; $i++)
8: {
      x[$i] = ($i + 1). "番目";
9:
      $func_val[$i] = rand(); // 乱数
10:
11:
      $data[$i] = array($x[$i], $func_val[$i]);
12: }
13:
14: // グラフ描画(棒グラフ)
15: // 800 x 600 pixels
16: $graph = new phplot(800, 600);
17: // グラフの枠線を直線で描く -> 'plain'
18: $graph->SetImageBorderType('plain');
19:
20: // 日本語フォント設定
21: $graph->SetTTFPath('./'); // PHPlotスクリプトと同じ位置
22: // IPAゴシック8~18ポイントに設定
23: $graph->SetFontTTF('title', 'ipaexg.ttf', 18); // タイトル
24: $graph->SetFontTTF('x_label', 'ipaexg.ttf', 8); // x軸ラベル
25: $graph->SetFontTTF('y_label', 'ipaexg.ttf', 8); // y軸ラベル
26: $graph->SetFontTTF('x_title', 'ipaexg.ttf', 10); // x軸タイトル
27: $graph->SetFontTTF('y_title', 'ipaexg.ttf', 10); // y軸タイトル
28:
29: // 棒グラフを描画 -> bars
30: $graph->SetPlotType('bars');
31: // データ形式 -> array("データラベル", 値)
32: $graph->SetDataType('text-data');
33: // 描画すべきデータ -> $data
34: $graph->SetDataValues($data);
35:
36: // グラフタイトル
37: $graph->SetTitle("棒グラフ");
38:
39: // 影なし:
40: $graph->SetShading(0);
41:
42: // グラフ描画実行
43: $graph->DrawGraph();
```

これを例えば bar_graph.php という名前で作成してエラーなしで実行できれば図 8.4 の グラフを PNG ファイルとして得られることになる。従って,このグラフを HTML ファ イルに埋め込む時には画像同様 IMG タグを用いて

のように指定する。

8.2.3 折れ線グラフの場合

双曲線 $y = x^2$ を折れ線グラフで表現してみよう。描画すべき x, y の値は次のようにして 3 次元配列 **\$data** に格納しておく。

```
// データ
$data = array();
// [$x_start, $x_end]区間をx_div等分割
$x_start = -5;
```

```
$x_end = 5;
$x_div = 100;
$x_step = ($x_end - $x_start) / $x_div;
// $data = ('', $x, func($x))
for($i = 0; $i < $x_div; $i++)
{
    $x[$i] = ($x_start) + ($x_step) * $i;
    $func_val[$i] = $x[$i] * $x[$i]; // x^2
    $data[$i] = array('', $x[$i], $func_val[$i]);
}
```

折れ線グラフを描画する時の指定は下記のようになる。

```
// lines ->折れ線グラフ
$graph->SetPlotType('lines');
```

// X, Y軸タイトル
\$graph->SetXTitle("x");
\$graph->SetYTitle("y");

```
// データ形式 -> array(xの値, yの値)
$graph->SetDataType('data-data');
// 描画すべきデータ -> $data
$graph->SetDataValues($data);
```



図 8.5 折れ線グラフ表示例

8.2.4 円グラフの場合

円グラフはデータの割合をパーセントで表示するためのものだが, PHPlot では元のデー タだけ渡しておけばパーセントの計算を自動で行って円グラフを描画してくれる。実際, この例では棒グラフと同様, 乱数として生成したデータをそのまま格納してあるだけで ある。

```
for($i = 0; $i < 5; $i++)
{
    $x[$i] = rand();
    $data[$i] = array(($i + 1) . "番目", $x[$i]);
}
cnを円グラフとして描画する時の指定は次のようになる。</pre>
```

```
// pie ->円グラフ
$graph->SetPlotType('pie');
// text-data-single -> array("データラベル", 値)
$graph->SetDataType('text-data-single');
// グラフに描画するデータ -> $data
$graph->SetDataValues($data);
```

円グラフの凡例 (legend) を付加する時には次の指定も行う。

```
// グラフタイトル & 凡例スタイル
$graph->SetTitle("円グラフ");
$graph->SetLegendStyle('left', 'left');
// プロットエリアのマージン設定(pixel単位)
// 左右上下
$graph->SetMarginsPixels(NULL, 50, 100, 50);
// ラベル付き(全てのデータラベルを表示)
foreach($data as $row)
{
$graph->SetLegend(implode(":", $row));
}
// グラフ描画実行
$graph->DrawGraph();
```

こうして図 8.6 のような円グラフが描画できるようになる。



図 8.6 円グラフ表示例

8.3 アクセス解析ページの作成

最後に, PHPlot の機能を用いてアクセス履歴の集計結果をグラフ化してみよう。まず 棒グラフとしてブラウザ数と時間ごとのアクセス数を描画する。

■ブラウザデータの取得とブラウザ数のカウント ブラウザ数は, user_agent の文字列 を取り出してブラウザを特定できる文字列を探索してカウントする。Internet Explorer, Firefox, AppleWebkit[11](Google Chrome や Safari) をそれぞれ特定するためには,

Internet Explorer ・・・"MSIE"を探索。

Mozilla/5.0 (compatible; MSIE 9.0; Windows NT 6.1; WOW64; Trident/5.0)

Firefox ・・・"Firefox"を探索

Mozilla/5.0 (Windows; U; Windows NT 6.1; ja; rv:1.9.2.13) Gecko/20101 203 Firefox/3.6.13

AppleWebkit ・・・"Webkit" ("AppleWebkit"でも可) を探索

Mozilla/5.0 (Windows; U; Windows NT 6.1; en-US) AppleWebKit/534.13 (KH TML, like Gecko) Chrome/9.0.597.98 Safari/534.13

を取り出してカウントすればよい。例えば次のようになる。

```
16:
     // ブラウザデータのみ全取得
17:
     $sql = "SELECT user_agent FROM " . $table;
18:
     $query_ret = $connect->query($sql);
19:
     // $user_agent_name : ブラウザを特定するための文字列
20:
21:
     $user_agent_name = array('MSIE', 'Firefox', 'WebKit');
22:
23:
      //初期化
      $data = array(); // グラフデータ
24:
25:
26:
      for($i = 0; $i < count($user_agent_name); $i++)</pre>
27:
        $data[$i] = array($user_agent_name[$i], 0);
28:
29:
     while($str_user_agent = $query_ret->fetch())
30:
      Ł
       // ブラウザ数カウント
31.
       for($i = 0; $i < count($user_agent_name); $i++)</pre>
32:
33:
        ł
         if(strpos($str_user_agent[0], $user_agent_name[$i]) != false)
34:
35:
           $data[$i][1]++;
36:
       }
37:
     }
```

これを棒グラフを描く access_list_graph_browser.php に埋め込んで棒グラフを描画する。

■時刻の取得と時間ごとのアクセス数のカウント 時間ごとのアクセス数は、アクセス時間をローカル時間に変換したのち、時刻部分のみを取り出してカウントすれば よい。例えば次のようにしてグラフ描画のためのデータを作成し、グラフを出力する access_list_graph_24hours.php を作成する。

```
// アクセス時間のみ全取得
16:
17:
     $sql = "SELECT request_time FROM " . $table;
18:
     $query_ret = $connect->query($sql);
19:
20:
     // $time_name : 0, 1, ..., 23
21:
     $hour_name = array(0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14,
15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23);
22:
23:
      //初期化
      $data = array(); // グラフデータ
24:
25:
26:
      for($i = 0; $i < count($hour_name); $i++)</pre>
27:
       $data[$i] = array($hour_name[$i], 0);
28:
29:
     while($request_time = $query_ret->fetch())
30:
     {
       // 時間のみ取り出し
31:
32:
        $hour = date('H', $request_time[0]);
33:
34:
       // カウント
35:
        for($i = 0; $i < count($hour_name); $i++)</pre>
36:
        {
         if($hour == $hour_name[$i])
37:
38:
           $data[$i][1]++;
39:
        }
40:
      }
```

こうしてカウントされたブラウザ数と時間ごとのアクセス数をそれぞれ棒グラフとして 描画する二つのスクリプトを access_list.php に IMG タグを用いて埋め込むと図 8.7 のよ うな出力を得ることができる。

課題 B

PHPlot サンプルスクリプトを参考にして、次の統計データをグラフ化せよ。

- ブラウザ名・・・円グラフ ("Internet Explorer", "Firefox", "Webkit", その他で分類)
- リモートアドレス・・・棒グラフ





図 8.7 グラフ集計機能付きアクセス履歴表示